

## 地球温暖化防止対策の推進

～二酸化炭素等の排出量の削減～

## 【重点分野の目標の達成状況】

## ■二酸化炭素等温室効果ガス排出量の削減

【目標：排出量を 1990 年レベルに比べ 6%削減】

2006 年度の市内の温室効果ガスの総排出量は、基準年と比べ 8.9%の減少

本市では、2004 年 3 月に改訂した「川崎市地球温暖化対策地域推進計画」に基づき地球温暖化防止への取組を推進しています。また、2008 年 2 月には、「カーボン・チャレンジ川崎工コ戦略」(CC かわさき)を公表し、全市をあげて地球温暖化対策に取り組むこととしています (P8 参照)。

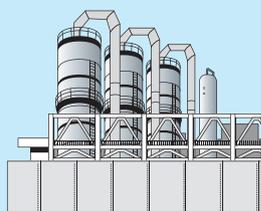
## 2006年度温室効果ガス排出量(速報値:二酸化炭素換算)

	排出量(万トンCO <sub>2</sub> )	基準年*増減比較 (%)
二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )	2,271.3	-0.4
メタン(CH <sub>4</sub> )	1.6	26.4
一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O)	26.2	33.2
ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)	6.5	-34.3
パーフルオロカーボン類(PFCs)	1.3	-95.1
六ふっ化硫黄(SF <sub>6</sub> )	4.8	-97.6

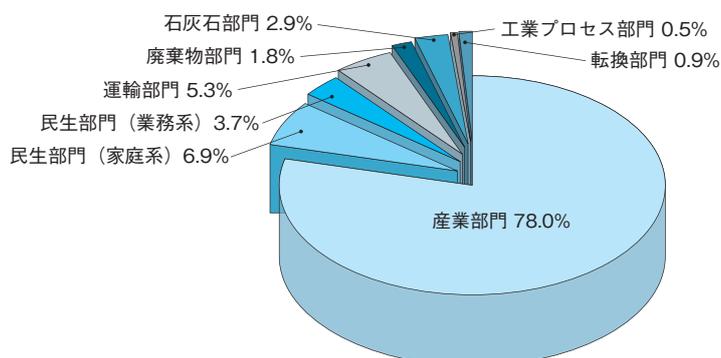
基準年\*:二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素は1990年、その他は1995年

## 市内の二酸化炭素排出量の部門別構成比

産業部門が 78% と大きな割合を占めています。これは、川崎市が京浜工業地帯の中核として、鉄鋼業や化学製品製造業等の産業が集積し、首都圏の生産拠点都市として機能しているという地理的な特性を反映しているものです。



## 市内の二酸化炭素排出量の部門別構成比



## 再生可能エネルギー拡大の取組

地球温暖化対策の柱の一つとして再生可能エネルギーの拡大に取り組んでいます。

- 住宅用太陽光発電設備設置補助(平成19年度 110件)
- グリーン電力購入によるカーボンオフセット  
太陽光や風力などによる電力を選択して購入し、需要サイドから再生可能エネルギーを牽引(アメフトワールドカップ、川崎発ストップ温暖化展など)
- 川崎市新エネルギー振興協会の設立
- グリーンエネルギー購入フォーラム川崎勉強会の開催  
エネルギーのグリーン購入の全国ネットワークに参加し、ミュージア川崎で勉強会を行いました。
- 廃食用油燃料化事業におけるCO<sub>2</sub>削減効果のLCA的評価  
環境技術産学公民連携公募型共同研究事業として、ライフサイクルでの評価を実施しました。
- 再生可能エネルギーの拡大の国への要望活動  
川崎市長の提案により、八都府市として国のエネルギー政策の基本方針に再生可能エネルギーを大きな柱として位置付け、目標量を大幅に引き上げることなどを国に対して要望しました。



環境省に要望主旨を説明する阿部市長